

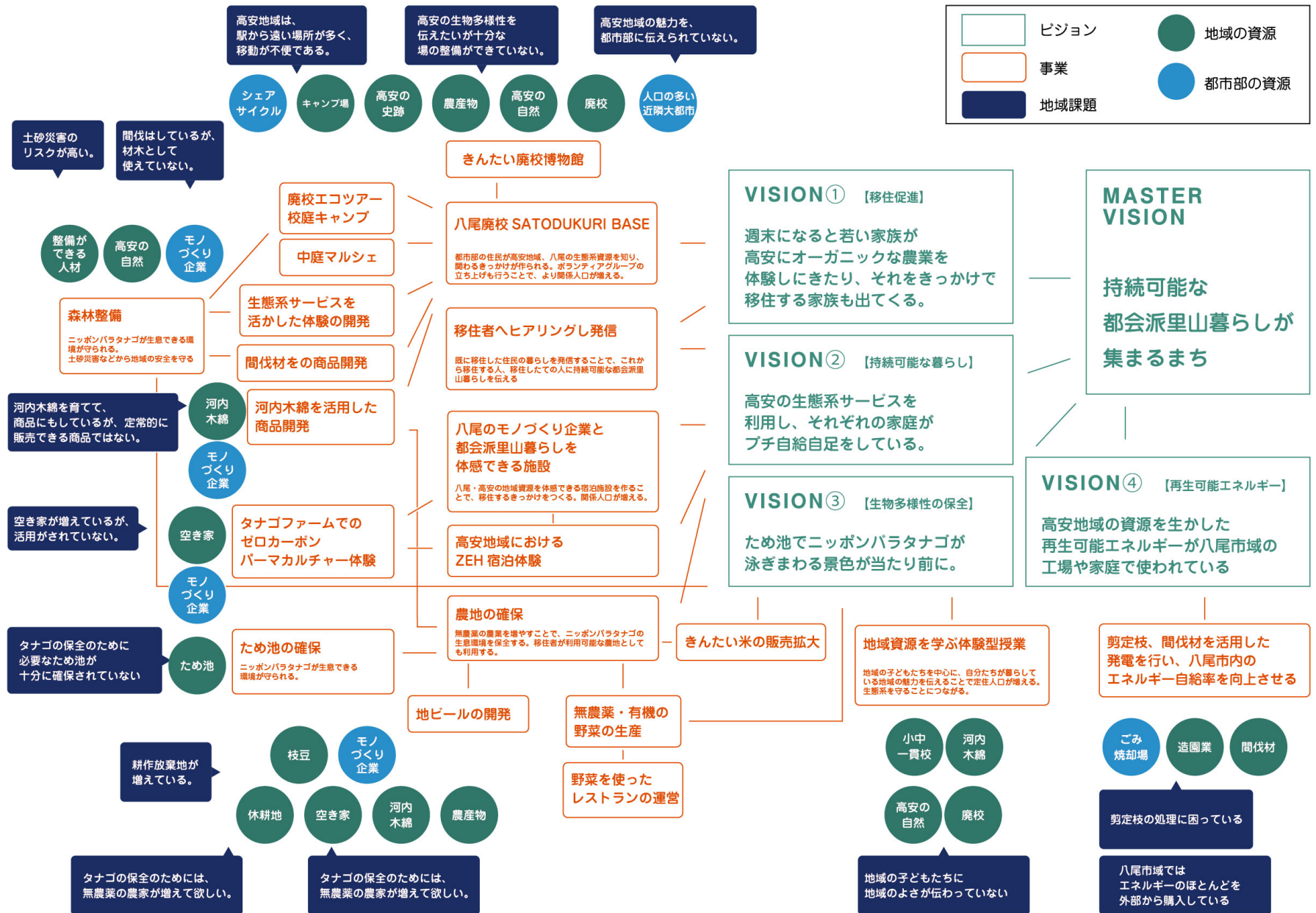
令和2年度 環境で地方を元気にする
地域循環共生圏づくりプラットフォーム事業

成果報告会 発表資料

活動団体名：環境アニメイティッドやお
活動地域：大阪府八尾市高安地域

活動におけるテーマ・キャッチコピー
持続可能な都会派里山暮らしが集まるまち

地域循環共生圏を実現することで目指す地域の姿



地域のありたい未来の実現のために **今年度取り組んだこと**

- 「持続可能な都会派里山暮らしが集まるまち」というマスタービジョンを決定。
- 廃校に「八尾廃校SATODUKURI BASE」というネーミングを付け、WEBサイトの構築、PR動画の作成などを行った。
- 新たな資金調達方法としてクラウドファンディングに取り組み、成功。
- 廃校の運営体制について整理し、地域での位置づけを明確化。
- 廃校に関わるボランティアグループの立ち上げ。
- 製材機を購入し、間伐材の商品化が実現。
- 企業とコラボした商品開発が実現。
- 新たな保護池や農地の獲得。
- 間伐材や剪定枝を利用した再生可能エネルギーについて検討開始。

地域のありたい未来の実現のための「事業のタネ」

1	事業名	八尾廃校SATODUKURI BASEの運営及び生態系資源を活用した商品・体験の開発		
	概要	週末になると若い家族が高安にオーガニックな農業を体験しにきたり、それをきっかけで移住する家族が出てくるような環境をつくること、またそれと同時にニッポンバラタナゴが泳ぎ回る景色を当たり前にする 것을目指して都市の住民を対象として、高安の生態系サービスに関わる商品と体験の開発、情報発信の拠点として整備を進めています。		
	課題・ボトルネック	継続運営するための資金調達及び運営方法の確立	力を借りたい人物・企業像	八尾市内のモノづくり企業

2	事業名	廃校エコツアー		
	概要	廃校エコツアーは、八尾廃校SATODUKURI BASEを拠点として周辺地域の自然、史跡を回るツアーです。また校庭でのキャンプなどを計画しています。併せて高安地域の移動手段の不便さを、シェアサイクル事業者と連携することで解消することも計画しています。		
	課題・ボトルネック	廃校にシェアサイクルの拠点がない	力を借りたい人物・企業像	シェアサイクル事業者

3	事業名	高安の生態系サービスを活用したモデルハウスの整備・地域内でのエネルギー自給のための基盤を構築		
	概要	高安地域の生態系サービスを活かしたエネルギー自給を目指した事業です。地域には造園業者が多く、剪定枝の処分に困っているという声があります。その剪定枝や間伐材を利用して、エネルギー自給を目指します。また、ZEHのモデルハウスを誘致することなども検討し、「持続可能な都会派里山暮らし」を体感できる拠点を整備する予定です。		
	課題・ボトルネック	使用できる空き家の確保、木材を切り出す資金、広域行政との調整	力を借りたい人物・企業像	大阪府広域環境施設組合、エネルギー供給事業者、森林整備活動への協力者（造園業者など）

今年度の環境整備の取組による地域の変化や気づき

話を聞きに行く！

- 新たなステークホルダーとして、八尾市内の文具メーカーが追加された。
- ニッポンバラタナゴの保護池と農地を貸していただけることになった。
- 再生可能エネルギーについて、市役所内で本格的に検討が始まった。

地域のコンセプトを描く！

- マスタービジョンを描き、それぞれのビジョンと事業の関係性を明確にし、それぞれに目標と期限、責任者を置くことで事業が加速度的に進みだしたように感じる。
- 当初、マンドラに記載していた内容の多くが実現に向けて動き出している。

事業のストーリーを語る！

- 事業を3つに絞るために整理を行った。この議論を行う中で、再生可能エネルギーについての取組を本格的に始動することが決まった。
- 八尾廃校SATODUKURI BASEの運営について、少しずつ進化しているものの、資金調達の手法等、今年度解決に至らなかったものが多かったことに気づかされた。

地域の目標を立てる！

- 目標シートの作成と別に、「緊張構造チャート」を利用して、非常に短期の目標（行動計画）の共有化を行った。それと同時に、責任者と期限を明確にしたことにより、活動が加速化したように感じる。
- 現在、八尾市の環境総合計画が策定中であり、その計画の中に地域循環共生圏の取組との関連性を持たせた目標値の設定を行うなど、行政担当者が内外の調整を行ってくださった。

2ヶ年の取組におけるボトルネックや新たに見えてきた課題

- クラウドファンディングが成功するなど、新しい資金調達手法に挑戦はしたものの、定常的な収益構造をつくられていない。
- ビジョンの再構成に時間をかけ、ビジョンの共有化とそれぞれの目標の進捗管理が非常に重要だということがよく理解できた。
- 企業とコラボした商品開発が出来上がってきたが、定常的な収益構造に繋がっていない。
- 八尾廃校SATODUKURI BASEの運営体制について、地域との関係性については整理をしたが、収益構造をつくっていくうえで、さらに運営体制（組織化等）の議論が必要。
- 再生可能エネルギーについては、これから本格始動に向けて動き始めるため、多くのステークホルダーとの調整、協議が必要になる。

今後の展望

- 今年度決めたビジョン、現状、責任者、期限、目標値の進捗確認をしっかりと行い、確実にビジョンに向けて進める。
- 廃校を中心とした収益構造を明確にする。
- 運営体制の更なる明確化。
- 再生可能エネルギーを八尾市内で循環させるための取組のスタート。
- 対面でのイベント等の再スタート。